

(6) 児童会・生徒会の取組例

子どもによるアンケートの実施

- 1 各学級で、学校生活の中のいじめ問題について考える。  
各学級で日々の生活の中での困ったことを考えながら、全校でできる取組について考えてもらう。
- 2 児童会・生徒会で、各学級の意見をとりまとめ、学校全体で実施する取組について検討する。  
(取組例：小学校)「よびすてをなくそう」
- 3 取組について各学級に提案し、期間を決めて実施する。
- 4 取組終了後、各学級でアンケートを実施する。  
(質問例)
  - ・よびすてをすることは減りましたか。
  - ・よびすてをされることは減りましたか。
  - ・よびすてをしない取組をしてどう思いましたか。
  - ・よびすてについてどう思いましたか。
- 5 児童会・生徒会でアンケート結果について話し合う。  
「上級生が下級生をよびすてにしている」等課題を見出し、対策について考える。
- 6 「よびすてをしないようにお互い注意する」等対策について各学級に提案し、定期的に全校朝礼等で改善の状況を各学級から報告する。

期待される効果

同じ目標に全校で協力して取り組むことで、子どもの主体性を育む効果が期待できます。

学校版『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言』の作成

- 1 各学級において、いじめについて話し合い、いじめ防止等に向けた具体的な取組を考える。  
(話し合いのポイント)
  - ・普段の学校生活の中で、仲間に嫌な思いをさせる行動を取ったり、取られたり、あるいは見たり聞いたりしたことはないか。
  - ・いじめのない安心・安全な学級・学校をつくっていくために、私たちができることは何か。
- 2 児童会・生徒会や学級委員等によるいじめ防止等に向けた意見交換会を行う。そこで各学級の取組を発表し、情報を共有する。
- 3 子どもによる「やさしさいっぱい子ども宣言」(子どもの考えや意見を反映させた宣言)を採択する。  
(例)
  - ー 知ろう
  - ー 認めよう
  - ー かかわろう つながろう
  - ー 話し合おう いかそう
- 4 学校版「やさしさいっぱい子ども宣言」を全校集会等で発表し、いじめのない学級・学校をつくっていくための決意を全校で確認する。
- 5 学校版「やさしさいっぱい子ども宣言」をホームページや生徒会新聞を活用し、保護者・地域に対して発信する。

期待される効果

全校でいじめについて真剣に考えることで「いじめは絶対に許されない」という認識を共有することができます。